

日川に於ける内務省直轄砂防工事

～勝沼堰堤と周辺の砂防設備～

田口明子

1. 内務省直轄砂防工事が日川で行われるまでの経緯

『山梨県議会史』と山梨日日新聞による

3. 埋もれていた日川砂防工事

勝沼町（昭和37年）『勝沼町誌』と（社）全国治水砂防協会（昭和48年）『砂防ダム大鑑』など

2. 日川で行われた内務省直轄砂防工事

日川水割（明治44年10月～大正4年11月）

勝沼堰堤（大正4年9月～大正6年3月）

鶴瀬堰堤（大正9年10月～大正11年5月）

駒飼堰堤（大正10年2月～大正10年11月）

横吹堰堤（大正11年6月～大正12年11月）

長垣堰堤（大正12年1月～大正13年8月）

矢方平堰堤（大正13年5月～昭和2年3月）

水野田堰堤（大正14年10月～大正15年9月）

丸林堰堤（大正15年9月～昭和2年8月）

一之畑堰堤（昭和2年7月～昭和2年9月）

山口堰堤（昭和2年8月～昭和2年12月）

棚小屋澤堰堤（昭和3年6月～昭和3年12月）

門井澤堰堤（昭和4年5月～昭和4年11月）

日川床固（昭和5年4月～昭和6年1月）

日川第二床固（昭和5年12月～昭和6年6月）

初鹿野第一・第二床固（昭和5年12月～昭和6年7月）

4. 特異な形状をしている内務省直轄施工の堰堤例

釜ツ沢砂防堰堤 栃木県日光市大字釜ツ沢 大谷川支流稻荷川 昭和13年竣工

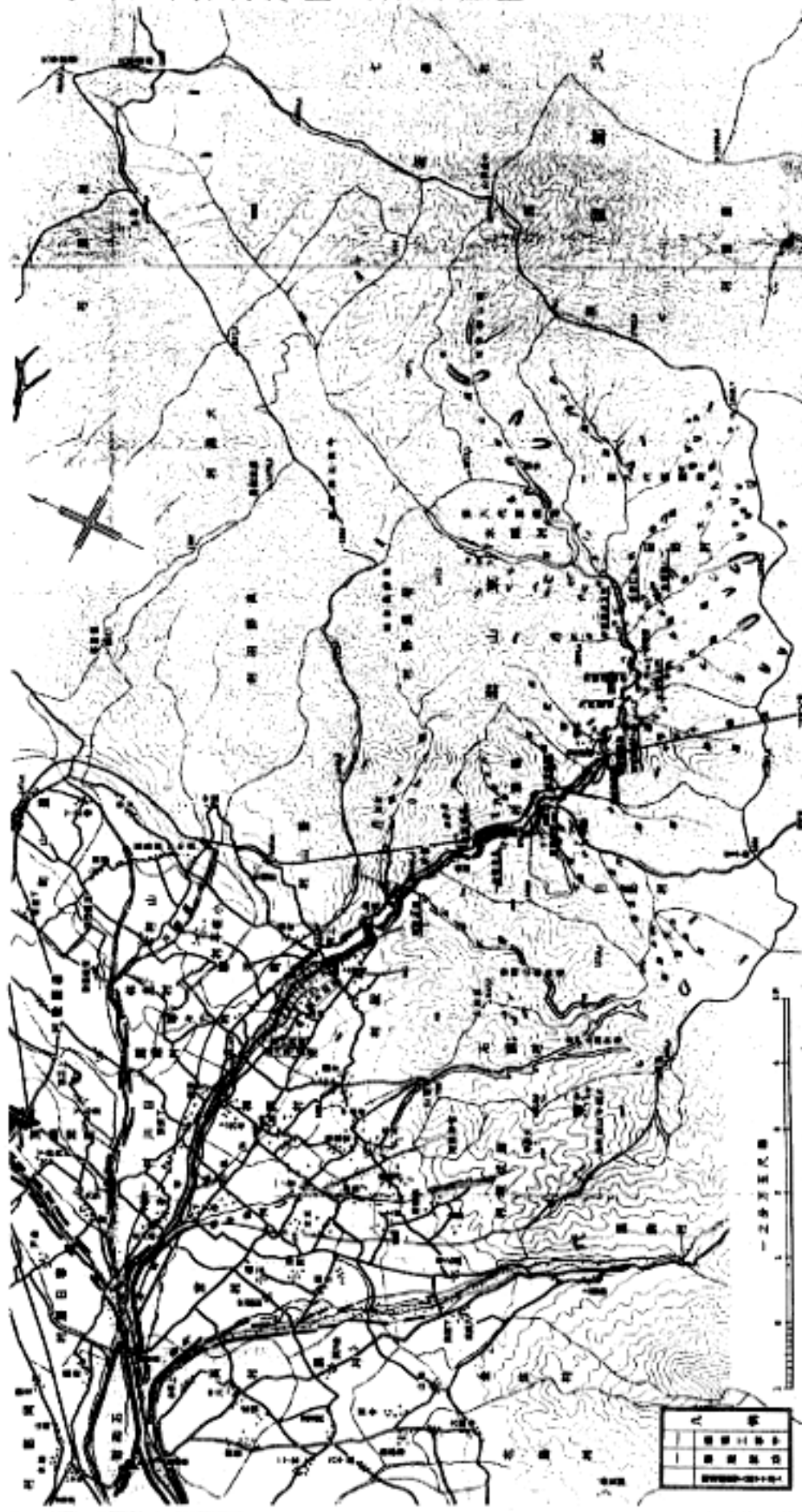
猿渡堰堤 神奈川県秦野市堀山下・戸川 水無川 昭和7年竣工

文献

内務省東京土木出張所（昭和9年）『富士川流域日川筋砂防工事報告（自明治44年度至昭和6年度）』

灌字（大正11年）『日川砂防工事』『土木學會誌』第八卷第一號

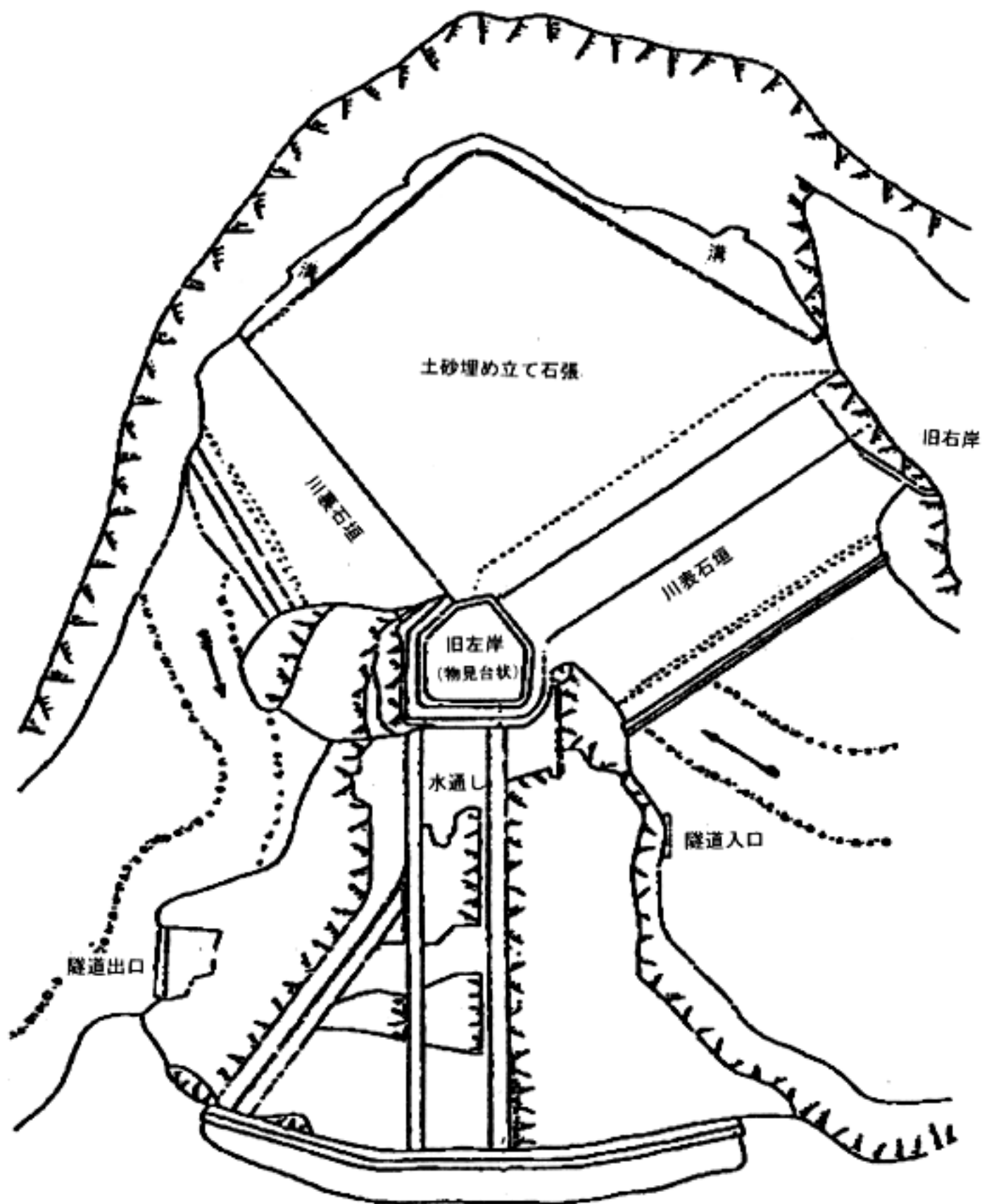
富士川流域砂防工事平面圖 其一



内閣府東京土木出張所 昭和九年

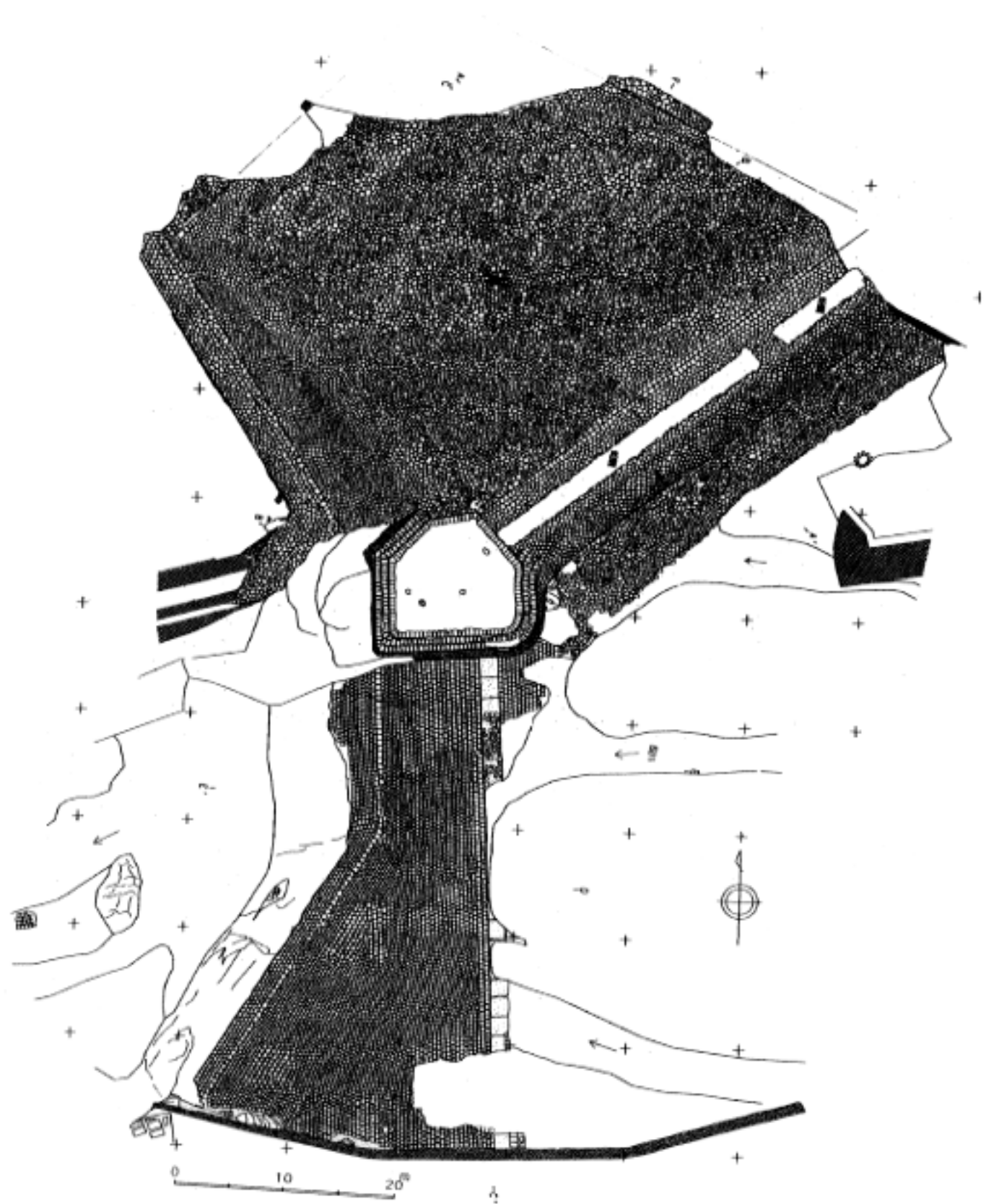
『富士川流域砂防工事報告（伊勢川四十三年調査昭和六年版）』より改訂

（富士川流域富士川砂防工事事務所編）



蒲 孚 大正 11 年「日川砂防工事」『土木學會誌』第八卷第五號より 加筆修正。

勝沼堰堤平面図 (縮尺 1/500)



山梨の治水土木技術

大門・塩川ダム管理事務所 二木弘峻

【発表要旨】

山梨県は地形・地質の脆弱さから、太古の時代より洪水の被害を被ってきた。このことからその時代の為政者は、水害や土砂害から住民の生活を守るため最先端の治水技術に経験と知恵を駆使し、また、平常時には食料生産や生活安定のため河川水を利用する技術を結集する治政を行ってきた。洪水に対しては川の怒りを和らげ、日々の河川については、灌漑用水や飲み水、発電用水等安定した水利用に古き時代より民力を結集し安全で安心できる生活基盤を作ってきた。

このことから、先進的な治水・利水技術は甲斐の国山梨から発信され、先駆けではなかったかと思えます。これら山梨の先人達が為し得た治水技術等の偉業についてここに紹介する。

1. 山梨の治水技術

・江戸以前の治水技術

信玄公以前の治水

信玄公時代の治水～甲州流防河法

江戸時代の治水

中国治水の三要素と甲州流防河法の対比

①「堤」⇒ 堤防 ～ 信玄堤、雁堤

②「浚」⇒ 浚渫 ～ 河床浚渫

③「疏」⇒ 分水 ～ 将棋頭

・明治以降の近代治水技術

明治40年8月の大災害と笛吹川本川付替工事(鶴飼川への付替)

釜無川・笛吹川・芦川三川落合(合流)の大工事 ～ 安藝岐一氏の河相論誕生

禹之瀬河道整正事業(S62～H6 12年間)

天井川の解消河川工事 ～ 滝沢川、印川等

五明川の合流調整河川工事 ～ 立体河川工事

2. 山梨の砂防技術

・御勅使川の砂防

日本三大崩壊地の一つ(他静岡・安部川大谷崩れ、富山・常願寺川大鷹崩れ)

砂防道場と云われている天下の御勅使川

・明治・大正・昭和・平成の砂防技術

明治14年全国に先駆けて県単独の砂防事業を実施～市ノ瀬川等

明治16年5月明治政府御雇工師ムルドルが県内河川巡視

御勅使川、日川等の重要荒廃河川への砂防工事の実施(赤木正男、蒲 孚)

～内務省直轄事業で行う画期的な御勅使川、日川の広大な砂防計画～

～芦安堰堤 日本で初めてセメントを使用した砂防ダム～

3. 河川水利用による利水開発

・灌漑用水～村山六ヶ村堰、差出堰、徳島堰、新倉掘抜、谷村大堰、五ヶ堰等

・発 電

桂川水系、富士川水系笛吹川水系、早川水系に昭和2年当時約60カ所設置されていた。

～芦川第一発電所:甲府電力(現東京電力㈱)が明治33年発電を開始した第一号発電所

・水 道

江戸時代甲府上水

大正元年現在の水道計画が樹立された～荒川平瀬地点で取水、導水して甲府市街地へ

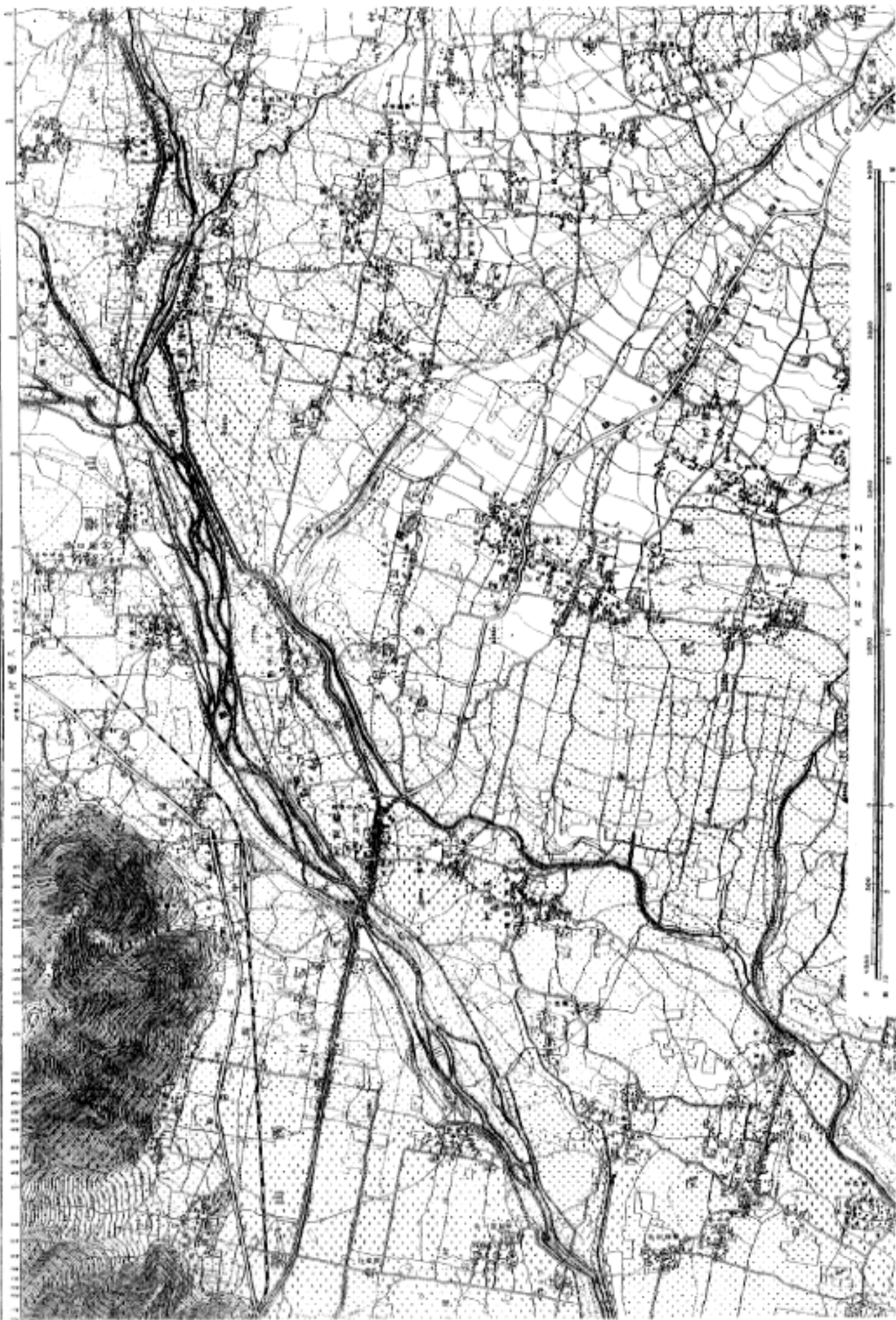
ダム開発と共同事業による水道水源開発

2. 河川アラカルト

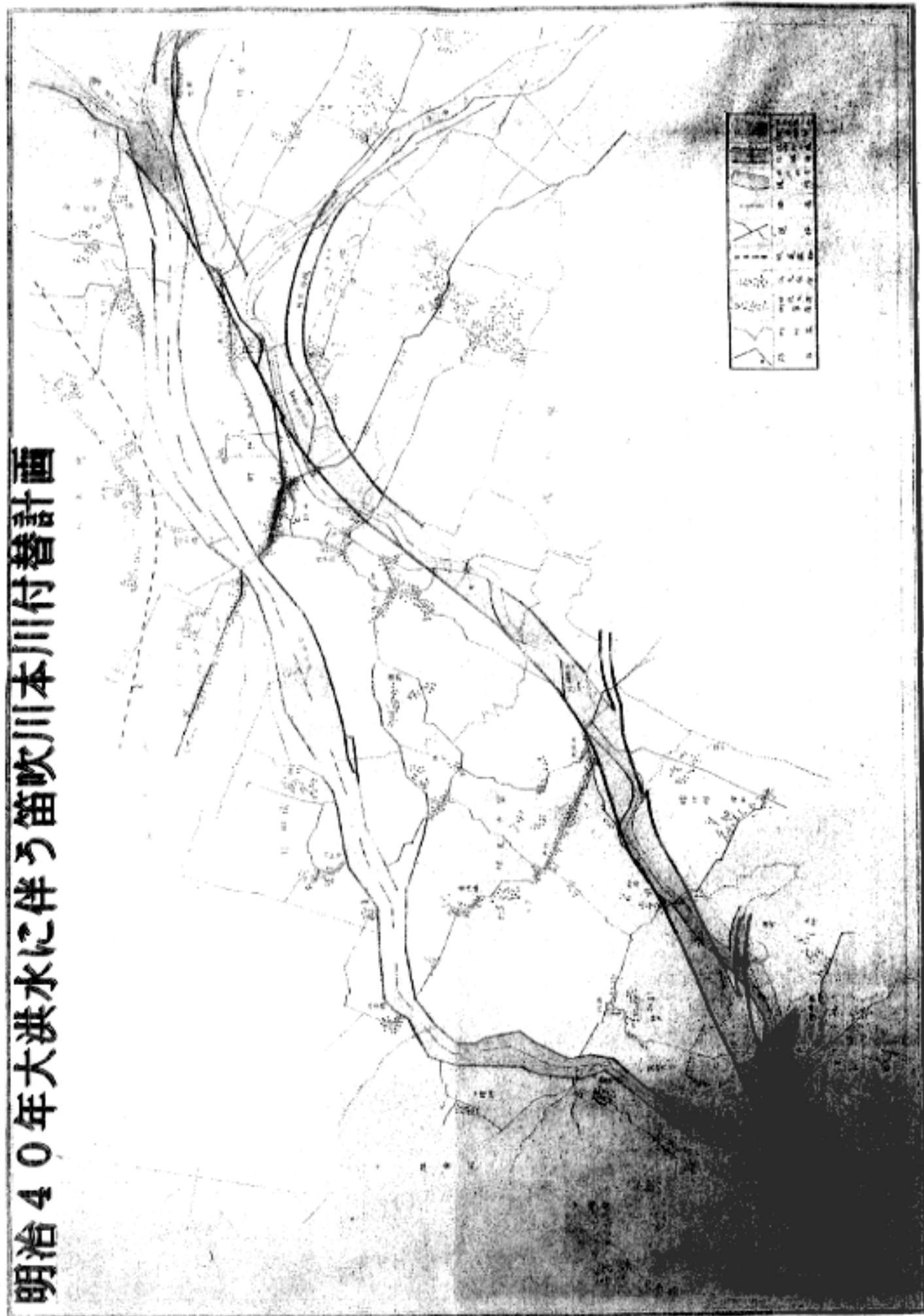
- ・松尾芭蕉と山口素堂
 - ～松尾芭蕉 神田上水の土木工事(延宝5年(1677)～5カ年 この間素堂と親交あり)
 - ～山口素堂 濁川改修河川工事？(芭蕉死後一時帰甲した時期か？)
- ・平安の雅をかもし出す河川名
 - ～笛吹川、琴川、鼓川、夕川、観音沢、徳和川、兄川、弟川、音取川
- ・山梨にも火力発電所があった
 - ～須玉川津金発電所に絡む韭崎火力発電所
- ・江戸浮世絵に見る土木施設等のインフラ整備
 - ～虎ノ門にダムがあった？

和石

明治21年測量、明治41年中央國土地院地圖院繪製、40年出版



明治40年大洪水に伴う笛吹川本川付替計画画



釜無川・笛吹川・蘆川三川落合合流処理状況



M40年大洪水前の現市川三郷町市川大門地先での河川状況

明治21年当時 (S=1/2万より編纂)
大日本帝國陸地測量部M27年印刷版

M40. 8月大洪水後の市川大門地先での洪水配流状況

明治43年当時 (S=1/5万より編纂)
大日本帝國陸地測量部T4年印刷版

河川合流点で月川は河床を下り笛吹川に合流。蘆川と吾妻川は昔開闢で導流し高田村迄で合流させた

昭和4年当時 (S=1/5万より編纂)
大日本帝國陸地測量部S7年印刷版

釜無川・笛吹川・芦川三川落合（合流）現況

